

# 出資団体台帳

出資団体名	<b>6.奥飛観光開発株式会社</b>
-------	---------------------

所管課	観光課
担当	

## 1. 出資団体概要 (令和6年4月1日現在)

①法人分類	株式会社 ( )			
②業務分類	観光・レジャー ( )			
③主な活動範囲	市内規模 ( )			
④所在地	高山市昭和町1丁目165番地1			
⑤設立年月日	昭和37年5月8日			
⑥従業員数	役員	(常勤) 4人 (非常勤) 11人		
	正社員	(常勤) 79人 (内出向) 0人		
⑦役員等	役職名	氏名	市所属・職位	
	代表者	代表取締役社長 宮川 学		
	役員	代表取締役常務	川瀬 裕之	
		取締役	藤井 かずね	
		取締役	大家 豊	
		取締役	押村 忠	
		取締役	安藤 隆司	
		取締役	岩切 道郎	
		取締役	安藤 直樹	
		取締役	田中 明	市長
		取締役	都竹 淳也	(飛騨市長)
		取締役	中田 邦彦	
		取締役	北村 斉 他1名	
監査役		清水 雅博 他1名	副市長	
⑧資本金	100,000 千円			
	出資者	資産種別	出資額 出資割合	
	高山市	有価証券	17,000千円 17.0%	
	他自治体	有価証券	1,500千円 1.5%	
	その他	有価証券	81,500千円 81.5%	
	【備考】 高山市 (34,000株) 飛騨市 (3,000株)  名古屋鉄道㈱ (157,200株)、富山地方鉄道㈱ (2,400株)、濃飛乗合自動車㈱ (2,400株)、高山商工会議所 (1,000株) 発行済株式総数 200,000株 配当金 H31 1,700千円、R2 1,700千円、R3 無配、R4 1,700千円、R5 1,700千円			

⑨設立目的			
	定款に掲げる主な事業内容	現在の実施の有無	主な受益者
	スキー場、スケート場、ゴルフ場、その他観光施設の経営	実施 理由 ( )	施設利用者
	観光ホテル、旅館、食堂、喫茶店、売店及び料理飲食店の経営	実施 理由 ( )	施設利用者
	物品、土産品、食料品、清涼飲料水、乳製品、酒類、医薬品、塩、煙草、郵便切手及び取入印紙の販売業	実施 理由 ( )	観光客
	観光遊覧船、ロープウェイ、リフトの経営	実施 理由 ( )	観光客
	土地建物の賃貸及び売却	実施 理由 ( )	施設利用者
	有料自動車道の建設及び経営	未実施 理由 ( 会社創設時の定款のまま )	
	温泉の掘さく	未実施 理由 ( 会社創設時の定款のまま )	
	有料駐車場の建設及び経営	実施 理由 ( )	施設利用者
	旅行業法に基づく旅行業の経営	実施 理由 ( )	事業者
		理由 ( )	
⑩地域の関わり	上宝・奥飛騨温泉郷地域をはじめ高山市全域における地域振興や観光振興の観点で様々に事業展開している。主要事業である新徳高ロープウェイは、日本唯一の二階建て Gondola を有し、山岳観光の拠点として有数の観光資源となっている。		
⑪市民の関わり	地域価値の向上に努め、各事業には地域住民の関わりも強く、地域の雇用促進にも繋がっている。		
⑫経緯			
出資時の状況	S37. 5. 10 地域の観光産業の振興を図るため1,000万円 (20,000株) 出資		
その後の経緯	S39. 10. 31 地域の観光産業の振興を図るため100万円 (2,000株) 出資 H17. 2. 1 市町村合併により、旧町村分12,000株 (旧丹生川村1,000株、旧国府町1,000株、旧上宝村10,000株、それぞれの町村もS37年の設立時及びS39年に出資) の出資を市に継承		

## 2. 事業概要

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
ロープウェイ事業	—	団体事業	新穂高ロープウェイの運営、維持管理 ・中部山岳国立公園内に位置し、標高2,156メートルから北アルプスが展望できる。 ・日本唯一の二階建て Gondola を有している。令和2年リニューアル	赤字	有	無	有
宿泊事業	—	団体事業	ホテル穂高の運営、維持管理 ・新穂高ロープウェイを目の前にした宿泊施設 ・良質な温泉	黒字	無	有	有
宿泊・キャンプ場事業	—	団体事業	日和田高原ロッジ・キャンプ場の運営、維持管理 ・施設内容 センターロッジ、セカンドロッジ、コテージ、オートキャンプサイト、テニスコート	赤字	無	有	無
不動産事業	—	団体事業	・不動産賃貸 ・月極駐車場 (3ヶ所)	黒字	無	有	有
市指定管理者事業	○	指定管理事業	新穂高駐車場管理 <u>☞継続</u> ・登山者や新穂高ロープウェイ来訪者に利用されている。 R5指定管理納入金8,599千円	赤字	有	有	有
市指定管理者事業	○	指定管理事業	飛騨日和田体育館 <u>☞継続</u> 高根総合グラウンド <u>☞継続</u> 日和田ハイランド陸上競技場 <u>☞継続</u> 高地トレーニング施設として活用されている。 R5指定管理料7,201千円	黒字	有	有	有



## 5. 課題等

項目		市所管課	団体
S W O T 分 析	内部分析	強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を活かした施設を有しており、老若男女幅広い客層に利用されている。</li> <li>・日本唯一の二階建てゴンドラを有している。</li> </ul>
		弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山市街地からのアクセスの悪さ（新徳高、高根日和田地区）</li> <li>・駐車場やゴンドラは収容台数や人数に限りがある。</li> </ul>
	外部分析	機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部縦貫自動車道の延伸による客足の増加が見込まれる。</li> <li>・自然に対する関心の集まり</li> <li>・アフターコロナによる外出機会の増加</li> <li>・インバウンドの回復</li> </ul>
		脅威	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行形態（団体旅行から個人旅行へ）の変化</li> <li>・天候不良や自然災害の発生</li> </ul>
事業面 (必要性、公益性、採算性、収益性など)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新徳高ロープウェイは山岳観光の拠点である新徳高地域にあり、奥飛騨温泉郷エリアの有数の観光資源として地域の活性化のための重要な施設である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主力事業である新徳高ロープウェイの魅力向上策の実施により、満足度の向上やリピーターの確保を図る。</li> </ul>
財政面 (財務状況の現状や将来の見通しなど)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋鉄道㈱のグループ会社として引き続き堅実な経営が見込まれ、財務状況は良好である。</li> </ul>	
施設・設備 (所有する建物や設備等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な施設修繕を実施している。</li> <li>・令和2年にロープウェイを更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に施設修繕等を実施している。</li> </ul>
組織・人員体制 (役員や従業員等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会を取り巻く外部環境を常に意識し、それに対応できる組織・人員体制の構築を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用の強化、人材確保に向けた人事労務諸制度の見直しを図る。</li> </ul>
公共施設等総合管理計画 (方針と今後の考え方)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新徳高駐車場 「継続」 (引き続き行政による管理・運営を行う。ただし、奥飛騨温泉郷活性化基本構想の中で、施設のあり方を検討する。)</li> <li>・日和田体育館、高根総合グラウンド、日和田ハイランド陸上競技場 「継続」 (トップアスリートや事業団、ジュニアアスリート等が高地トレーニングを行うための施設としての機能と質の向上を図る。)</li> </ul>	—
自由記載 (団体や事業の今後のあり方や果たすべき役割について)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹的な地域資源であるロープウェイ事業を行っており、地域への経済効果の波及が期待されることから、引き続き安定的な運営や、連携した各種事業の推進が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、観光団体、地域の観光事業者等との連携強化による当社への誘致拡大ならびに飛騨地域の活性化を進める。</li> </ul>